



細菌学者として今も研究に余念がない。ただ、前名大学長の加藤延夫さん(68)＝名古屋市東区榎木町＝にはもう一つ「柔道家」の顔がある。「これからも勉強です」と、最近も熱心に試合会場へ足を運んでいる。

柔道を始めたのは明倫中(現明和高)に入学した昭和十七年。黒帯を夢見ていたが、戦火が激しさを増す。わずか二年間で畳から離れざるを得なかった。

以後も柔道への情熱は衰えなかったが、さらに身近になったのが今年の三月。インドのラクナウで開かれたアジア・ジュニア国際大会に愛知県内の五人の

柔道歴56年 念願の黒帯

高校生が出場したが、会場の日本人は関係者だけだった。

当地で国際協力事業団(JICA)の医療グループを視察していた加藤前学長は仲間と手作りの日の丸を振って応援。勇気づけられた五選手は全員がメダルを獲得する活躍だった。

感激した愛知県柔道連盟は実績と功績をたたえ講道館に昇段者として推薦。今年一月、初段を乗り越し二段と認定された。

柔道を始めて五十六年目にして手にした黒帯。加藤前学長は「これに恥じないようにしないと...」と、目を輝かせる。

愛知県柔道連盟の高浜久和強化委員長も「最近では礼を重んじる柔道本来のよさが失われている。有識者にもアドバイスをお願いしたい」と、期待を寄せている。

ゆうかんさん 柔道歴五十六年、念願の黒帯

細菌学者として今も研究に余念がない。ただ、前名大学長の加藤延夫さん(68)＝名古屋市東区榎木町＝にはもう一つ「柔道家」の顔がある。「これからも勉強です」と、最近も熱心に試合会場へ足を運んでいる。

柔道を始めたのは明倫中(現明和高)に入学した昭和十七年。黒帯を夢見ていたが、戦火が激しさを増す。わずか二年間で畳から離れざるを得なかった。

以後も柔道への情熱は衰えなかったが、さらに身近になったのが今年の三月。インドのラクナウで開かれたアジア・ジュニア国際大会に愛知県内の五人の高校生が出場したが、会場の日本人は関係者だけだった。当地で国際協力事業団(JICA)の医療グループを視察していた加藤前学長は仲間と手作りの日の丸を振って応援。勇気づけられた五選手は全員がメダルを獲得する活躍だった。

感激した愛知県柔道連盟は実績と功績をたたえ講道館に昇段者として推薦。今年一月、初段を乗り越し二段と認定された。柔道を始めて五十六年目にして手にした黒帯。加藤前学長は「これに恥じないようにしないと...」と、目を輝かせる。

愛知県柔道連盟の高浜久和強化委員長も「最近では礼を重んじる柔道本来のよさが失われている。有識者にもアドバイスをお願いしたい」と、期待を寄せている。